

ペットのための持出品リスト

ペットの健康や命にかかわるもの

- ☐ 最低3日間のペットフード・水
- ☐ 食器
- ☐ 療法食、投薬中の薬
- ☐ ケージ・キャリーバッグ
- ☐ 予備の首輪、リード
- ☐ トイレ用品（ペットシート、トイレ砂、新聞紙など）
- ☐ 排泄物の処理用具
- ☐ ワクチン接種状況、既往症などの情報



あとと便利なもの

- ☐ タオル・ブラシ
- ☐ ウェットタオルや清浄綿
- ☐ ビニール袋（排泄物の処理など多用途に使用可能）
- ☐ ガムテープやマジック（ケージの補修、動物情報の掲示など多用途に使用可能）
- ☐ お気に入りのおもちゃ等匂いがついた用品

- 7 -

ペット防災手帳



災害が起こると、人間と同じようにペットも被災します。この手帳は、災害からペットを守るために、災害に対しての備えや、災害時の注意事項を記載しています。

必要事項を記入後、非常持ち出し袋等に入れて、いつでも持ち出せるようにしてご活用ください。

行田市

災害が発生したときの対応

- 災害発生時、飼い主にはペットの安全と健康を守り、他の人に迷惑をかけることなく、ペットを適正に飼養管理する義務があります。
- ペットが動揺し、普段では見られない行動をすることがあります。飼い主が落ち着いてペットの安全を確認してください。
- 犬は首輪にゆるみがないか確認し伸縮しないリードをつけ、小型のペットはケージ等に入れて避難してください。
- 避難するときは見知らぬ動物に近づかず、不用意に手を出さないでください。

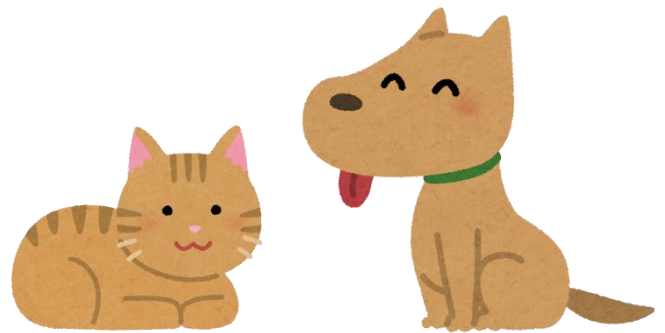
行田市の避難所について

大規模な災害により避難所が開設された場合、ペットを連れて避難することができます。ただし、以下のきまりごとがあります。

- 避難所では、飼い主とペットは同じ場所で生活することはできません（車中、介助犬を除く）。ペットは決められたスペースで飼い主が責任を持って飼養します。
- ペットはケージに入れた状態でなければ、避難所での受け入れができません。
- 避難所にはペット用の食料や備蓄はありません。飼い主はペットのための持ち出し品を備えておきましょう。

- 5 -

のりしろ ペットの情報



※ペットの外見や特徴が分かる写真を貼りましょう。（ペットが複数いる場合は、このページをコピーして上部ののりしろ部分に貼り付けてください。）

ペットの名前：（ 歳）

ペットの種類：犬・猫・その他（ ）

犬種・猫種等：

体色： 体重： kg

性別： おす・めす 不妊/去勢手術： 未・済

登録番号（犬）：

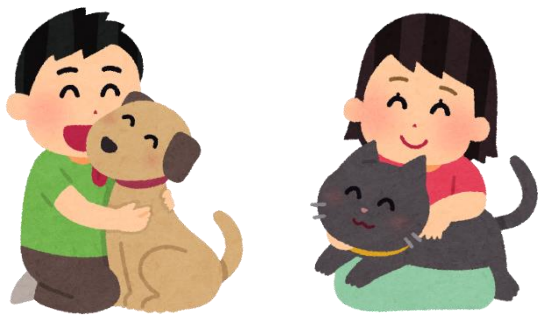
マイクロチップ：無・有（No. ）

ワクチン接種：未・済（種類： 接種日： ）

その他の特徴：

- 2 -

飼い主の情報



※飼い主とペットと一緒に写った写真を貼りましょう。
飼い主であることを証明するときに役立ちます。
携帯電話等にも写真を保存しておきましょう。

氏 名：

住 所：

電 話：

緊急時
預け先： ☎

かかりつけ
動物病院： ☎

メ モ：

- 1 -

避難中のペットの飼養環境

災害の種類や被災状況を踏まえて、自身とペットの安全を優先して、以下のような選択肢から適切な飼養環境を選択しましょう。

① 在宅避難（自宅での飼養）

避難所生活に比べて、環境の変化が少なく、ストレスを軽減できる。災害情報に注意を払いながら、二次災害の危険があるときは、同行避難する。

② 同行避難（避難所での飼養）

同行避難するペットはケージに入れる。避難所に設置されたペット飼養スペースで、各避難所が定めたルールに従い、飼い主が責任を持って世話をする。

避難所の飼養環境の維持管理には、飼い主同士が助け合い、協力することが必要。

③ 車中避難（車の中での飼養）

ペットだけを車に残すときは、車内の温度に常に注意し、十分な飲み水を用意しておく。長時間、車を離れる場合には、ペットを安全な飼養場所に移動させる。

④ 親戚や施設などに預ける

被災を免れた親戚やペットホテルなどにペットを預ける。預け先の条件や期間、費用を事前に確認しておく。

- 6 -

日頃からの備えと健康管理

- 狂犬病予防接種及び必要な各種ワクチンの接種
- ノミ・ダニなどの寄生虫駆除やフィラリア予防
(多数のペットや人が集まる避難所は、様々な病気がうつるおそれがあります)
- 不妊・去勢手術 (他のペットとのトラブルを防ぐため)
- 飼育場所周辺に倒れやすいものなど危険がないか点検
- 首輪・くさりの点検 (首輪と首の間に指が2本入くらいが適正です)
- シャンプーやトリミングにより体を清潔に保つ

ペットの所有者明示

突然の災害にペットが驚いてしまい、迷子になるかもしれません。ペットが保護されたとき、飼い主のもとに戻れるよう、普段から、鑑札、マイクロチップ、迷子札など身元を示すものを装着しましょう。

飼い犬には鑑札と狂犬病予防注射済票を装着することが義務付けられていますが、迷子の間に壊れて、首輪が外れてしまうことがあります。マイクロチップとの併用が効果的です。



- 3 -

基本的なしつけ

避難所では、動物が苦手な人やアレルギーを持つ人もいるため、避難者が生活するスペースとペット飼養スペースを分けて用意します。

大勢の人やペットと慣れない環境で集団生活になるため、他の人に迷惑にならないように普段から基本的なしつけをしておきましょう。

これは周りの人のためでもあると同時に、ペットのストレスを少なくすることにつながります。

- ☒ 「おいで」「おすわり」「まて」など人の指示に従うようにする
- ☒ 決められた場所での排泄を覚えさせる
- ☒ 不必要に鳴かせない
- ☒ 人や動物を怖がったり、攻撃的にならない
- ☒ 様々な音や物に慣らしておく
- ☒ ケージ等の中に入ることを嫌がらないように、日頃から慣らしておく
- ☒ 体のどこでもさわられるように慣らしておく

- 4 -